【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成18年3月2日(2006.3.2)

【公開番号】特開2000-217639(P2000-217639A)
【公開日】平成12年8月8日(2000.8.8)
【出願番号】特願平11-26230
【国際特許分類】
Ａ４７Ｂ　3/08　(2006.01)
Ｂ６０Ｂ　33/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４７Ｂ　3/08　C
Ｂ６０Ｂ　33/06　B

【手続補正書】
【提出日】平成18年1月16日(2006.1.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
天板と、該天板を支持するため該天板の左右両側に設けられた一対の立脚と、
該一対の立脚のうち少なくとも一方の下端に前後方向に幅を持って設けられた固定足と、
該固定足の下部に前方と後方とに分散して少なくとも１つずつ設けられた一対のキャスタと、
前記固定足の下部に設けられた接触部と、
前記立脚に沿って設けられ、前記一対のキャスタ及び前記接触部から成る３要素のうちのいずれか１要素を可動部として、該可動部を外的操作によって昇降させる昇降機構と、
を備え、前記可動部を、前記昇降機構を介して、昇降させることによって、
前記接触部が、前方及び後方のキャスタのうちの一方より相対的に下方に位置して床面に接地することにより、当該移動机の移動を阻止する固定状態と、
前記接触部が、前方及び後方のキャスタのうちの一方より相対的に上方に位置して、各キャスタのみが床面に接地することにより、当該移動机の移動を可能とする移動可能状態と、
のいずれかに設定可能な移動机において、
前記可動部は、前記固定足の下部に配置される３要素のうち、前記可動部とされない２要素の間に配置されたことを特徴とする移動机。
【請求項２】
前記天板は、左右方向を軸として回動可能となるよう、天板支持部を介して、前記立脚に設けられ、
前記昇降機構は、
前記天板の回動に連動して、該回動の軸、または、該回動の軸と平行な軸の周りに回動されるカムと、
該カムの端部に軸支され、前記立脚に沿って略上下に配置される棒状部材であり、前記カムの回動に連動して上下動されるロッドと、から成り、
前記可動部は、前記ロッドの前記カムとは反対側の端部に連結されたことを特徴とする請求項１に記載の移動机。

【請求項３】
一端に前記可動部が固定され、他端が前記固定足に軸支された長尺状のリフト部材を備え、
該リフト部材は前記ロッドの前記カムとは反対側の端部に連結されており、前記ロッドの上下動に連動して前記固定足の支持軸周りに揺動されることを特徴とする請求項２に記載の移動机。
【請求項４】
前記リフト部材は、前記ロッドに直接軸支されていることを特徴とする請求項３に記載の移動机。
【請求項５】
前記カムの回動軸に、前記天板の回動に関係なく、外的操作によって、前記カムを回動させて、前記可動部を昇降させるための操作レバーを設けたことを特徴とする請求項２～請求項４の何れかに記載の移動机。
【請求項６】
前記固定足に、前記固定足の側面から下面にかかる衝撃吸収のための保護カバーを設けたことを特徴とする請求項１～請求項５の何れかに記載の移動机。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
【課題を解決するための手段】
上記課題を解決するためになされた本発明の請求項１に記載の移動机は、天板と、該天板を支持するため該天板の左右両側に設けられた一対の立脚と、該一対の立脚のうち少なくとも一方の下端に前後方向に幅を持って設けられた固定足と、該固定足の下部に前方と後方とに分散して少なくとも１つずつ設けられた一対のキャスタと、前記固定足の下部に設けられた接触部と、前記立脚に沿って設けられ、前記一対のキャスタ及び前記接触部から成る３要素のうちのいずれか１要素を可動部として、該可動部を外的操作によって昇降させる昇降機構と、を備え、前記可動部を、前記昇降機構を介して、昇降させることによって、前記接触部が、前方及び後方のキャスタのうちの一方より相対的に下方に位置して床面に接地することにより、当該移動机の移動を阻止する固定状態と、前記接触部が、前方及び後方のキャスタのうちの一方より相対的に上方に位置して、各キャスタのみが床面に接地することにより、当該移動机の移動を可能とする移動可能状態と、のいずれかに設定可能な移動机において、前記可動部は、前記固定足の下部に配置される３要素のうち、前記可動部とされない２要素の間に配置されたことを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
また、請求項２に記載の本発明は、請求項１に記載の移動机において、前記天板は、左右方向を軸として回動可能となるよう、天板支持部を介して、前記立脚に設けられ、前記昇降機構は、前記天板の回動に連動して、該回動の軸、または、該回動の軸と平行な軸の周りに回動されるカムと、該カムの端部に軸支され、前記立脚に沿って略上下に配置される棒状部材であり、前記カムの回動に連動して上下動されるロッドと、から成り、前記可動部は、前記ロッドの前記カムとは反対側の端部に連結されたことを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
次に、請求項３に記載の本発明は、請求項２に記載の移動机において、一端に前記可動部が固定され、他端が前記固定足に軸支された長尺状のリフト部材を備え、該リフト部材は前記ロッドの前記カムとは反対側の端部に連結されており、前記ロッドの上下動に連動して前記固定足の支持軸周りに揺動されることを特徴とする。
また、請求項４に記載の本発明は、請求項３に記載の移動机において、前記リフト部材は、前記ロッドに直接軸支されていることを特徴とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
さらに、請求項５に記載の本発明は、請求項２～請求項４の何れかに記載の移動机において、前記カムの回動軸に、前記天板の回動に関係なく、外的操作によって、前記カムを回動させて、前記可動部を昇降させるための操作レバーを設けたことを特徴とする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
そして、請求項６に記載の本発明は、請求項１～請求項５の何れかに記載の移動机において、前記固定足に、前記固定足の側面から下面にかかる衝撃吸収のための保護カバーを設けたことを特徴とする。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
この昇降機構では、天板を回動させると、カムが天板の回動軸、または、天板の回動軸と平行な軸周りに回動され、カムの端部に軸支されたロッドが上下動される。これにより、ロッドの下端に連結された可動部を昇降させることができる。そして、この移動机は、天板を略水平にすると固定状態となり、天板を回動させて立脚に平行にすると移動可能状態となるよう構成されることが実用上好ましい。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
一方、可動部をロッドの下端に直接連結すると、可動部が前後に振れることが問題になる場合がある。そこで、請求項３に記載の移動机のように、一端に可動部が固定され、他端が固定足に軸支された長尺状のリフト部材を設け、このリフト部材とロッドの下端とを連結すると良い。このようにすると、ロッドの上下動に連動して、リフト部材が固定足の支持軸周りに揺動されるので、可動部は前後に振れることなく、カムの回動角度により一

定位置に位置決めされる。また、請求項３に記載の移動机においては、請求項４に記載のように、リフト部材を、ロッドの下端に直接軸支されるように構成してもよい。

【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】
　また、請求項２～請求項４の何れかに記載の移動机では、天板を回動させなければ固定状態または移動可能状態に設定できないので、煩わしい場合がある。そこで、請求項５に記載の移動机のように、カムの回動軸に操作レバーを設ければ、天板を回動させなくても、操作レバーを操作するのみでカムを回動させ、可動部を昇降させることができる。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
　また、請求項６に記載の移動机のように、固定足の側面から下面にかかる保護カバーを設ければ、移動机の移動時に固定足側面が壁等に衝突した場合、あるいは使用者の靴先が固定足側面に当たった場合等に、衝撃吸収のためのバンパーとして機能する。また、使用者の靴先が誤って固定足と床面の間の隙間に入っても、靴先に傷が付くことはない。